



## 武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水をとりにくくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、5年目を迎えました。

### 連続講座レポート

## 第2回 武蔵野市の水はどこから？

### ～水道水がつくられる場所を訪ねてみよう

私たちが使う水、飲む水として、水道は大切な役目を果たしています。7月7日（土）の第2回講座は、武蔵野市第一浄水場の見学や、飲み比べで水の違いを発見し、断水時の水を考えるワークショップを行いました。

### 安定して安全な飲み水を供給する場所

レポーター：水の学校サポーター 諏訪さん

武蔵野市の水は2か所の浄水場でつくられ、27本の井戸水80%、都の水20%から成っています。

講座はまず第一浄水場の見学から始まりました。200～300mもの深井戸から取られた水を集めて消毒、除鉄・除マンガンなどの処理を行い、配水池で都の水と合わせて、貯水し必要に応じて配水します。ここで面白い話。昔NHKテレビで“おしん”今ではワールドカップなど、テレビの影響で給水量が通常時とは違うパターンで多くなる時間があるとのこと。又震災時等にも自家発電が備えてあり水は供給出来るとの事で安心しました。途中で井戸水と都の水の飲み比べがあり、「美味しい」「冷温の差だけで解らなかった」などの声が聞かれ、とても和む一時でした。井戸は地上にある井戸と地下にある井戸がありますが、機能面での違いはなく設置場所の外見上の違いだそうです。

参加した受講生からは「普段は入れないところを見学できたのでうれしかった」「普通に使っていた上水を供給するまでにこんなに多くの手間をかけていることを知り、ありがたい」などの感想がありました。今回の受講生は若い方が多く、熱心に学んでいらっしやるのが水に対する関心の高さを感じました。

### 「同じ」水にも「違い」がある？

レポーター：水の学校サポーター 佐藤さん

サポーター1期生の内田さんが進行を担当し、まず、第1浄水場の見学の感想を話し合いました。「都水よりも武蔵野市の深井戸の水の方が美味しかった」「今後もできるだけ長く深井戸の水を使い続けて欲しい」との”武蔵野市の深井戸水”ファンや支持者が多く、そんなホームゲームで、3種類（武蔵野の地下水：水・好き、サントリー天然水、evian）のペットボトルウォーターの飲み比べをしました。①まず最初に試飲をして、味や匂い、普段飲んでいる水に近いなどの好みを話し合いました②次に、3種類の水のラベルを見て水の成分を比較して、更に話し合っていました。

話し合いの結果は、①好みとしては、1番：武蔵野の地下水、2番：サントリー天然水、3番：evian（好きと答えた人は殆どいなかった）の順番でした。「初めて水の飲み比べをして水の違いが理解できて、他の水も味わってみたい」と興味を示した方もいました。その他、「evianは他の2種類の水と違う」「武蔵野の地下水は味がありアルプスの天然水はサラッとしていた」という声もありました。②3種類の水で違いが際立つ硬度やNaについて、病気や健康について科学的なコメントをする方もいて、水の味とは違った健康に良い水と言う比較をする方もいました。

今回の水の飲み比べは、最初に試飲してから成分確認をする先入観を持たずに味わえる良い順番だったと思います。成分確認後の皆さんのコメントで、病気や健康のコメントが多かったのは、年齢的なものもあったと思いますが、お茶・コーヒーに合う水、水割りを美味しくする水、水を使いこなして美味しい料理を作るポイントなどを水の成分から説明するとご家庭でチャレンジする方も出てくるのではないのでしょうか。



### いざという時の水は・・・

前回の講座で「武蔵野市民が1日に使う水道水の量は？」というクイズがありました。正解は314L。もし水道が使えなくなったら、普段の生活はどうなるのでしょうか。皆さんのご家庭ではどれだけの水を備蓄していますか？

こんな問いかけから始まった、「いざという時の水の使い方を考える」ワークショップ。雨水市民の会の高橋さんが講師となり、身近にある水でいざという時に工夫して使える水、絶対に飲んではいけない水などのお話をいただいた後、ペットボトルで作る簡易浄水器の実習を行いました。